富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

赫夜 ―かぐや―

博物館だより
2017 2.28 69号

上段左：平成 16 年（2004）の富士山頂への鳥居奉納のようす　上段中：平成 16 年（2004）に富士山頂に奉納された鳥居　上段右：広見公園への移築のようす（平成 28 年 11 月 16 日）　下段：本館２階エントランス前に立つ現在の鳥居

★★★★ 岩淵鳥居講の鳥居　広見公園に立つ！！ ★★★★

平成28年8月7日、富士市岩淵の人々を中心に組織される岩淵鳥居講により、12年ぶりに富士山頂へと白木の鳥居が奉納されました。この鳥居奉納の行事は、一説では、かつて富士川の渡船に携わっていた岩淵の地において、毎年作られる船の材を富士山から得ていたことに対する返礼とされ、江戸時代から途絶えることなく受け継がれてきました。

この鳥居奉納にあわせて、12年前の平成16年に奉納された鳥居は麓へと下ろされ、防腐処理を施した後、平成28年11月に、世界文化遺産となった富士山の重要な要素である富士山への信仰の姿を今に伝える貴重な文化財として、当館の2階エントランス前へと移築されました。12年間、富士山頂の過酷な環境に耐え抜いた鳥居をぜひお近くでご覧下さい。

(井上 卓哉)

第54回企画展

東洋美術史の父　大村西崖

前期：3/11(土)〜4/16(日)／後期：4/18(火)〜5/21(日)

大正9年(1920)、大村西崖は大著『密教発達志』によって、帝国学士院賞を受賞しました。帝国学士院賞とは、学術上特に優れた論文や著書などの研究実績に対して授与される、日本の学術賞としては最も権威ある賞で、現在は日本学士院賞となっています。

帝国学士院賞第10回受賞者として、その栄誉に浴した大村西崖とは、どのような人物なのでしょうか。西崖に関わる膨大な資料群は、そのまま彼の勤勉でエネルギッシュな人生を物語ります。今回の企画展では、大村西崖がのこした数えきれないほどの功績に迫ります。

西崖は、明治元年(1868)10月12日、富士郡水戸島村の塩澤家の次男(峰吉)として生まれ、青年期に漢学を深井柳村、英語を末吉英吉、南画を新間雲塀に学びました。特に南画(文人画)を学んだことは、東京美術学校に進むきっかけとなり、実技から学術へと進路は変わるものの、生涯を東洋美術史の研究に捧げた西崖の出発点になります。

大礼服姿の大村西崖

明治22年(1889)、西崖は東京美術学校に第一期生として入学するものの、当時は文人画排斥の空気が濃厚だったため、彫刻科を専攻しました。在学中に富士川村岩淵の大村家の婿養子となり、大村西崖と改名します。ここに、西崖の学生時代のエピソードを拾い出してみます[※1]。

「大村西崖君が聖徳太子の像を彫刻したことがあったが、造り上げて立たせて見ると前へのめってどうしても立たない。そこで御沓の後をけづってやっと立ったなどは笑ひ物だった(東京美術学校第一期生・関保之助)**」**

聖徳太子像(東京藝術大学蔵)は、今回出品の西崖卒業制作品です。前のめりになってどうしても立たないとありますが、この頃の西崖の日記『蜩笑消陰録』によると、卒業制作品の評定が「得点九十六、又為第一席」と書かれ、決して低く評価されているわけではないことがわかります。実際に成績優秀であったため、横山大観や関保之助らとともに迎えた東京美術学校第一期生卒業式において、答辞文を託されています。

しかし、どうも実技においては他を圧倒するほどの芸術的センスに恵まれなかったのか、一貫して周囲の評価は低く、次第に美術史や仏教美術に傾いていった西崖の志の変化を汲み取ることが出来るように思います。西崖を美術史学の道へ導く契機となったのは、森鷗外との出会いではないかともいわれており[※2]、今回、鷗外との関わりを示す資料も出品されます。

西崖が生涯に出版した著作はここでは紹介しきれないほどたくさんあります。「学者で著述をしない者は、糞をしない兎みたいなものでね」とよく言っていたという西崖[※3]。今回の企画展は、大村家から寄贈された東京藝術大学美術学部教育資料編纂室の膨大な資料群をはじめとして、地元旧家などのご協力のもと、144件245点にのぼる資料を展示し、西崖の偉業を概観する、富士市・旧富士川町合併後初の企画展です。ミュージアムのとなりの広見公園では、桜に続いて春バラが見ごろのシーズンです。お花見がてら、ぜひ足をお運びいただけますと幸いです。　(高林 晶子)

※1：香取秀真・六角紫水・関保之助・清水亀藏・溝口禎次郎「座談会　現代美術の黎明期を語る」『畫説　第十四號』東京美術研究所(昭和13年２月１日)
※2：谷信一「美術・美術史界回想雑記(三)」『美術雑誌萌春第316号』日本美術新報社(昭和57年1月15日)
※3：矢代幸雄「忘れえぬ人々　その一」『大和文華第十四号』大和文華館出版部(昭和29年6月1日)

関連イベント

特別講演会

「静岡に生まれた東洋美術史の世界的権威 大村西崖」

■講　師　吉田千鶴子氏(元東京藝術大学非常勤講師)
■日　時　平成29年(2017)5月14日(日)　午後2時〜
■会　場　富士山かぐや姫ミュージアム１階講座室
■受 講 料　350円
■申　込　4/29(土)午前９時〜電話受付
■定　員　40名(先着順)

学芸員によるギャラリートーク(午後1時半〜)

■開催日　3/11(土)、3/20(月祝)、3/25(土)
4/8(土)、4/16(日)、4/22(土)、4/30(日)
5/7(日)、5/21(日)

リニューアル1周年記念展

富士登山列伝 ～頂に挑むということ～

平成29年6月3日(土)～8月27日(日)

世界文化遺産に登録された富士山。その正式名称が「富士山～信仰の対象と芸術の源泉」ということからもわかるように、古くから聖なる山として人々の信仰を集めてきました。同時に、富士山は登山の対象でもあり、数多くの登山者が挑んできた山でもあります。

本展示では、富士山の表口を中心に、歴史に名を残した人物たちによる富士登山に注目することで、山に挑むということの意味を探り、登山の対象でもあった富士山の姿を御紹介します。

また、展示期間中には、現在、富士山で修行を行っている修験者の方をお招きし、山に挑むということや、富士山の魅力についてお話いただく講演会を実施します。今年の夏は、この展示をご覧いただき、皆さんも富士山に挑んでみませんか。 (井上 卓哉)

本展示で注目する登山者

①富士登山のレジェンド
・聖徳太子　・役行者

②富士山の修行者たち
・富士上人、末代　・長谷川角行とその弟子たち
・村山修験の人々

③お殿様、富士に挑む
・宮津藩主、松平宗秀

④外国人、富士に挑む
・オールコック＆フォンブランク

⑤富士の頂で気象観測に挑む～芙蓉の人～
・野中 到＆千代子夫妻

⑥登山記に見る江戸時代の富士登山

⑦写真に見る100年前の富士登山

野中 到

野中 千代子

（『高嶺の雪』より）

本館２階 多目的室

野田好子作品寄贈記念展

平成28年12月23日(金祝)～平成29年2月26日(日)

富士市出身の洋画家・野田好子さんが、平成28年２月にご逝去されました。野田さんはいまの富士市前田で生まれ、県立吉原高等女学校(現吉原高校)を卒業後、画家として活動しはじめました。幼少期から習っていたピアノへの想いから、画中に楽譜を描くなど独特の画風で好評を博しました。また、晩年には俳句と絵画を融合させた作品を制作しました。

この度、生まれ故郷である富士市に多くの作品や遺品が寄贈されました。これに謝意を表し、富士市が生んだ偉大な画家である野田好子さんの作品に市民の皆さまにも親しんでいただきたいと思い、作品展を開催して多くの皆様にご覧いただきました。 (高林 晶子)

羽衣

伊豆の海　晩夏の蝶は波に消ゆ

平成29年度 展示会案内

★９月９日(土)～10月22日(日)
「地頭」と呼ばれた寺院－東泉院領に生きる“神領百姓”の江戸時代－

★11月３日(金祝)～12月３日(日)
静岡県立美術館 移動美術展

★12月16日(土)～平成30年３月４日(日)
産業の種蒔く人－伝法中原４号墳と古代富士の萌芽－

★平成30年３月17日(土)～平成30年５月20日(日)
オフダに込められた祈りのカタチ

各種イベント・体験講座案内

◆　農家の食と年中行事

旧稲垣家住宅において、さまざまな年中行事を体験することで、富士山麓に生きてきた人々の暮らしを感じてみませんか？

日時・内容

①5月5日(金祝)　新茶の手もみと柏餅作り
②7月1日(土)　七夕飾り作りと流しそうめん
③8月20日(日)　そばの種まきとゆで落花生作り
④9月10日(日)　里芋の収穫と月見団子作り
⑤10月29日(日)　そばの収穫とかまどめし
⑥11月25日(土)　そばの脱穀・製粉と干し芋作り
⑦11月26日(日)　そばうち
※⑤、⑥、⑦は3回連続での出席が条件です
⑧12月23日(土祝)　もちつきと注連縄作り
⑨1月8日(月祝)　繭玉作りと小豆粥
⑩3月17日(土)　牡丹餅作り

各回とも原則9:00～13:00

定　員　・固定枠（全10回参加一括申込み）
　　→小学生とその保護者　5組10名程度
　　・フリー枠→各回先着10名程度

※詳しい申込み方法、日時等は「広報ふじ」をご覧になるか、直接ミュージアムへお問い合わせください。

◆　博物館まつり

市内最大級（176 種2,000 株）のバラが咲く歴史公園で、20 種以上の体験が楽しめます。探検ラリーに参加して、博物館を極めよう！

日　時　5月21日(日) 9:30～14:30
場　所　富士山かぐや姫ミュージアム/広見公園

◆　古代人の暮らし～古代の知恵に学ぶ～

日時・内容

①7月17日(月祝)　9:00～12:00
　ミニミニはにわ作り
　…手のひらサイズのミニはにわ作りと火おこし体験

定　員　①年少～小学生の親子　先着15組30名
　　※小学4年生以上は1人でも参加可
会　場　①工芸棟陶芸室
申込み　①7月8日(土)9:00～電話または直接来館

◆　戦時中の料理

戦時中の体験を通して当時のことを知り、考えよう。

日　時　8月9日(水)10:00～13:00
定　員　小学3年生以上　先着10名
申込み　7月30日(日)9:00～電話または直接来館

◆　富士の型染体験

富士の伝統工芸「型染」でテーブルセンターに挑戦

日　時　8月11日(金祝)　9:30～12:30
定　員　小学生～一般　先着20名※小学 4 年生以下は保護者同伴
申込み　7月29日(土)9:00～電話または直接来館

◆　チャレンジ！！陶芸＆陶芸歳時器

「チャレンジ！！陶芸」は、偶数月の第2･4土曜日（2回講座）、「陶芸歳時器」は奇数月の第2土曜日に開催しています。気軽に陶芸を楽しもう！

◎各講座、イベントともに内容・日時が変更する場合もあります。詳しくは、博物館ホームページや各講座チラシ、広報ふじ等でご確認ください。

かまどでご飯（旧稲垣家住宅）

富士山かぐや姫ミュージアム　赫夜－かぐや－

博物館だより No.69

発行年月日　平成29(2017)年2月28日
編集・発行　富士山かぐや姫ミュージアム
　　Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum
印　　刷　文光堂印刷株式会社
住 所・連絡先　〒417-0061　静岡県富士市伝法66-2　TEL.0545-21-3380　FAX.0545-21-3398
　　HP. http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/　E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp
開 館 時 間　4月～10月　9:00～17:00　11月～3月　9:00～16:30
休　館　日　月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)
歴史民俗資料館（　分　館　）　開館時間・休館日は本館に同じ
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし　**すべて観覧無料**

タイトルの「赫夜－かぐや－」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。

このリーフレットは、再生紙と植物油インクを使用しております。